

- ◆企画名 KU サポーターズ夏季自主研修合宿
日 程 平成 25 年 9 月 9 日 (月) ～9 月 11 日 (水)
場 所 高槻キャンパス 高岳館
参加者数 19 名 [ピア・サポーター 10 名、研修生 5 名、一般学生 (KU サポーターズ OB) 1 名、職員 2 名、卒業生 1 名]

目 的

KU サポーターズの前期活動を振り返り、後期活動計画及び活動指針の再検討を行う。
また、ほっこり相談室における相談対応について、そして相談室の改善についてメンバー全員で話し合う場をもつ。また、全メンバーのスキルアップを図ることを目的とする。

内 容

今後の活動のためのミーティングとスキルアップのためのワーク、その他リフレッシュのためのボディワークやレクリエーションを行った。

- ・KJ 法を現役メンバー全員で行い、KU サポーターズについての思いを共有し、今後の活動方針をみんなで考えた。後に院生側が現役メンバーに考えを伝えた。
- ・前期の活動内容を振り返り、情報共有した上で生まれた改善点や反省点を発表した。
- ・全体で輪になって座り、この半年間自分が活動の中で何をしたのかを一人ずつ発表し、メンバーで共有した。
- ・秋学期以降の事業の計画と今後の KU サポーターズの運営について全員で話し合った。
- ・今年度春学期にあった 3 つのケースの相談対応について、鶴飼先生を中心にメンバー全員で検討し、反省点や新しい対応例を考え、実際に練習した。
- ・メンバー全員が輪になって座り、各々がこれまでの活動で感じていた本音を率直に述べることで、思いを共有した。

感 想

目立った遅滞もなく、スケジュール通りに進んだ三日間であった。
多くのメンバーが一斉に集まる場で、これまでの活動やこれからの活動についての話し合いができたのは意義があった。特に、メンバーそれぞれの KU サポーターズについての思いが共有できたことは今後の活動に活かされるだろう。
また、相談対応のロールプレイができたことは、ほっこり相談室における相談対応の経験の少ないメンバーにとって特に意味のあるものであったように思う。他のメンバーにとっても新しい対応例を考え、練習することができたことは今後の活動にとって大きい。
三日間メンバーと過ごしたことで、メンバー間での「きずな」がより深まったように思う。

改 善 点

ワークによってメンバー間の仕事量に差が出来てしまった。また、鶴飼先生との連携が上手く取れず、当日の流れが曖昧になるなどの問題があった。事前の準備においてメンバー間で連携をとったり、ワークの内容を練ったりする必要があるだろう。
ミーティングにおいては、発言する人に偏りができてしまったこと、事前の準備が十分に出来たとは言えず、進行が滞る場面が多かったことが反省として挙げられる。今後は司会が会議での発言を様々なメンバーに促すこと、事前の準備を詰めて行うことが求められる。